小金井市公民館貫井北分館
若者コーナーへようこそ！

●今回のテーマ●

ミュージアム～次世代に文化財をつなぐ～

公民館からは、『小説 日本博物館事始め』（裏面参照）の舞台　東京国立博物館 通称「トーハク」の紹介です。次世代に文化財をつなぐために、保存、修理、展示などを行っている「トーハク」、体感してみませんか。

「トーハク」のはじまり

初代博物館長は町田久成(1838～1897)です。町田は1865年に渡英、大英博物館などを訪問し、日本での博物館創設を目指しました。1867年帰国後、明治維新改革、廃仏毀釈の流れの中で多くの美術品が破壊、また海外に流出していくのを惜しみ、文化財の散逸を防ぐことに尽力し、日本の博物館の基礎を、**二代目館長となる田中芳男(1838～1916)**と築きました。田中は**「日本の博物館の父」**として知られ、博物学や分類学における翻訳語の成立に関わりました。

トーハクの庭園にある町田久成の碑

「トーハク」の誕生は1872年（明治５年）

1872年に開催された湯島聖堂博覧会を機に誕生しました。この博覧会の目的は、日本の近代化を目指すこと、日本の文化を国内外に知ってもらうこと、明治維新による改革の中で危機的な状況にあった文化財を守ることでした。

「トーハク」に国宝は８９件

日本の文化財保護法によって国が指定した有形文化財（重要文化財）のうち、世界文化の見地から価値の高いもので類いない国民の宝たるものであるとして国（文部科学大臣）が指定したものが国宝です。

国宝は全国に902件(2023年現在)、「トーハク」には指定されている美術工芸品の約１割となる89件が所蔵されています。

151年間の歴史を持つ「トーハク」には国宝89件、重要文化財648件を含め120,073件の所蔵品があり以下の６つの建物で観ることができます。

本館（日本ギャラリー）

２階には展示室が10室あり、日本美術の流れをたどる時代別展示になっています。はじまりの展示室１は「日本美術のあけぼの―縄文・弥生・古墳」、展示室10は「浮世絵と衣装―江戸」です。

１階はジャンル別に展示室が10室あり、彫刻や陶磁、歴史の記録などを観ることができます。また、文化財保存の最前線の技術を知ることができます。

東洋館（アジアンギャラリー）

地下１階から５階まで、中国・朝鮮半島・東南アジア・西域・インド・エジプトなどの美術と工芸、考古遺物が展示され、東洋美術をめぐる旅を味わえます。３階にはテラスがあり、「トーハク」の中庭を見ながら休憩できます。

また、地下１階には、ミュージアムシアターがあり、デジタルならではの文化財との新たな出会いを楽しめます。

平成館（特別展・日本の考古）

１階の考古展示室では、考古資料で旧石器時代から江戸時代までの日本の歴史をたどることができます。教科書でみたあの作品にも出会えます。２階は特別展示専用の展示室です。

法隆寺宝物館

1878年に、奈良・法隆寺から皇室に献納された宝物300件が所蔵されています。中２階には体験型展示スペース　デジタル法隆寺宝物館があり、大型8Kモニターで絵の詳細まで観賞できます。

法隆寺は７世紀の初めに聖徳太子により創建。1993年にユネスコの世界遺産（文化遺産）に登録されました。

黒田記念館

日本近代洋画の父と言われる黒田清輝が、美術の奨励事業に役立てるように遺言し、1928年に竣工。

表慶館

1909年に大正天皇の成婚を記念し開館。明治末期の洋風建築を代表する建物で重要文化財に指定。

なお、詳細は東京国立博物館ホームページをごらんください。https://www.tnm.jp
文化庁博物館総合サイトでは博物館の詳細が紹介されています。